

新規サービス開始の裏側 ～SuperCSI技術委員会の活動について～

SuperCSI技術委員会委員長 西村 浩二
(広島大学情報メディア教育研究センター)

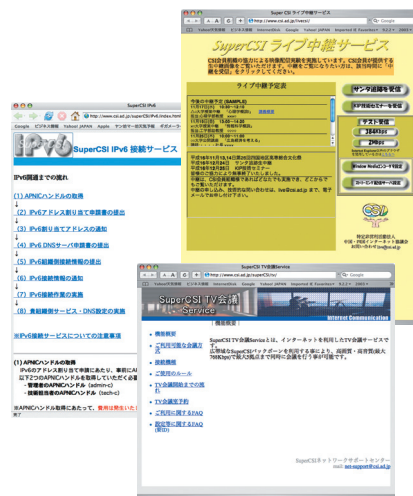
前号でもお知らせしましたように、従来より当協議会の中心的な事業として行ってきた「インターネット接続事業」は2004年4月1日、SuperCSIという形で再スタート致しました。SuperCSIはブロードバンド時代の急速な技術革新に柔軟に対応できるばかりでなく、当地域における大学等の教育研究機関の先進的なインターネット利活用技術の研究開発基盤としてのポテンシャルを兼ね備えたネットワークです。

そこで当協議会ではSuperCSIをより有効に利用するために、これまでの活動のなかで当協議会や会員組織において開発された技術や今まさに標準化が行われたばかりの最新技術、規模的に会員組織単独では実現が難しいが会員組織全体では実現可能な技術などを選定し、SuperCSI上で実現するための方策を検討する組織として、SuperCSI技術委員会を立ち上げました。SuperCSI技術委員会は当協議会のメンバーとSuperCSIの運用・保守・会員向けソリューション活動を担当するNTT西日本グループのメンバーが対等な立場で活動できるように構成され、実現すべき技術の選定から運用面での問題点の検討、試行運用を経て本運用(サービス化)に至るまでのプロセスをその活動範囲としています。

SuperCSI技術委員会の活動の成果として、2004年11月1日よりIPv6接続サービス^{*1}が開始されました。これまではごく一部の研究機関でしか利用するのが難しい技術という感のあったIPv6ですが、今後は従来のインターネット接続サービスと同様にSuperCSIの標準機能として提供されます。IPv6接続サービスと時を同じくして、ライブ中継サービス^{*2}の試行運用、また2004年12月1日にはTV会議多地点接続サービス^{*3}も開始されました。これらは投資効率という点で会員組織単独での実現は規模的に難しいサービスですが、会員組織全体の規模で見れば有用であり、サービスとして成り立つということを実際の運用を通して実証するために行われるものです。

このように、試験的にであれ先進的なサービスを機動力を持って導入できることはSuperCSI技術委員会の特徴のひとつであると同時に、また当協議会の存在意義でもあると考えています。会員の皆様にはご理解とご協力をいただきますとともに、SuperCSI技術委員会の今後の活動にご期待ください。

(^{*1}) <http://www.csi.ad.jp/ipv6-announce.html> (^{*2}) <http://www.csi.ad.jp/livecsi/> (^{*3}) <http://www.csi.ad.jp/tvservice-announce.html>



CSI役員・運営委員

理事長	吉田 典可
副理事長	相原 玲二、染岡 慎一
理事	片山 博昭、小関 祐二、土肥 章裕、西村 浩二、前田 香織、前田 真理
監事	石永 正隆、大場 充
運営委員	相原 玲二(委員長)、前田 香織(副委員長)、今井 一雅、上野 優香、河野 英太郎、田島 浩一、玉井 基宏、椿 康和、土肥章裕、西村 浩二、原田 隆、前田 真理、松川 正義 (2004年12月23日現在)



セキュリティ・ポリシーとコミュニケーション

広島大学 地域連携センター 助教授 匹田 篤

インターネットの商用利用が開始されて10年が過ぎ、社会における情報セキュリティについての理解も徐々に高まっています。しかし実際には、インターネットはなんとなく怖いというイメージだけを持っていたり、誰かに怒られるから決められた手順に渋々従っているような状況も少なくありません。

そうこうしている間にも、セキュリティの裏をついた不正の手口は日々、巧妙なものとなっています。結果として対策の現実直面する一部の人が、焦るあまり、規則や手順を押しつけてしまう場面も見られます。

情報セキュリティは、技術の導入と共に、セキュリティの方針の表明であるセキュリティ・ポリシーも多くの組織で策定されています。ポリシーとは、いわば技術の使い方です。これを決めれば技術は実用的な手段となり、それを皆で実行するだけでいいということになります。

この「決めたことを組織全体で実行する」というところが、セキュリティのネックとなっているケースが多いようです。セキュリティの技術は学ぶことができます。セキュリティ・ポリシーは外部の力を借りてでも策定することができます。しかし、実行するためには組織全員がまともなといけません。これはコミュニケーションの問題なのです。

【セキュリティを円滑にするもの – コミュニケーション】

セキュリティ・ポリシーの体裁は組織の規程と似ています。規程やルールは、守るのが当たり前ののですが、その裏には「当たり前のことを納得する」というステップが不可欠です。組織の人々に、当たり前であることを納得してもらわなければなりません。インターネットの仕組みや技術は、目に見えにくいこともありなかなか理解されにくいものです。だからこそ、当たり前のことを納得してもらうことに、もっと呼びかけの工夫をし、力を注ぐ必要があります。

納得していない人に対しては、「決定事項は守ること」「手順通りに作業を行うこと」という言葉があまり通用しません。日常生活において、町中でもメディアでも、このような呼びかけは数多くあります。どうやら我々は一方的な呼びかけに対して、無頓着になりつつあるようです。無頓着になってしまった人々を振り向かせるためには、広い意味でのユーモアが求められていると考えています。

コミュニケーションとは、作られた仕組みを一方向的に押しつけることではありません。仕組みを理解し、共に手順を守っていくためのプロセスです。そのためにも一方的ではない呼びかけを行い、その結果として人々に連鎖していくコミュニケーションが大切なのです。



広島大学で開講している講義
「メディア活用研究」の一場面

【センスは学べる】

コミュニケーションの能力は、センスや素質で片づけられてしまいがちです。センスや素質は天性のもので、自分には無関係だと逃げてしまう人も多いのですが、コミュニケーションもデザインも、大半の部分は技術や知識です。デザイナーや芸術を学んだ人は、そういう技術や知識を学んでいるのです。我々もそれを学ぶことができます。その最初のステップは、知識を得るとともに、良いものを観て真似をすることです。

デジタルカメラの仕組みを知っていてもよい写真が撮れるわけではありません。我々は新しい技術だけではなく、新しい表現や新しいコミュニケーションについても学んでいく必要があります。技術とともに感性を磨くことで、ネットワーク社会はよりよいものになっていくことでしょう。

CSIの活動を活性化するためのアイデア募集について

利用促進部会・副査 前田 真理
(広島市立白島小学校)

10月6日づけで会員様あてに、運営委員会・利用促進部会から、見出しの通り募集をさせていただきました。これは、地域におけるインターネット利用の健全な発展と普及に貢献しようという、CSIの趣旨にかなう活動アイデアを広く個人会員のみなさんから募集し、実践していくためです。初めての試みなので多少の不安がありましたが、早速1件の実験の応募がございました。内容ですが、数百名規模の緊急時における携帯電話メール連絡網の運用等についての実証実験を行う予定です。この実験の成果は、研究会等の場で広く公開したいと考えております。

CSIは、今後も会員の皆さんからの活動アイデア募集を継続したいと考えています。実現に必要な具体的な技術に不明点があってもかまいません。利用促進部会までお気軽にご相談ください。お待ちしております。

会員紹介シリーズ No.9

安田女子大学 (<http://www.yasuda-u.ac.jp/>)

安田女子大学は2004年(平成16年)、家政学部(管理栄養学科、生活デザイン学科)を設置し、文学部(日本文学科、英語英米文学科、児童教育学科、心理学科)、現代ビジネス学部、(現代ビジネス学科、2003年設置)とあわせて3学部7学科の構成となりました。安田女子短期大学2学科(保育科、秘書科)とともに約3,250名の学生が在籍しています。

学内には情報教室5教室が設置され、二重化されたギガbit LANに接続された約400台の実習用PCが、全入学生に対して週2コマ実施される情報基礎教育を支えています。

さらに、情報に関する専門教育科目群を持つ現代ビジネス学科の学生にはノートPCが貸与され、ノートPCを授業で積極的に活用するために、個々の学生用に電源と情報コンセントを装備したノートPC教室が学内に多数設置されています。

7階までの吹き抜けと、エスカレータ、ガラスエレベータ等、校舎としては極めてユニークな特徴を持つ新館(9号館)には来年度の授業のためのマルチメディア教室・スタジオの設置準備が進められています。真空管収録系を採用したプロ・オーディオ実習、ハイビジョンコンテンツの作成実習、本格的な3DCG実習やDTM実習を取り入れた授業が展開される予定です。

(文責：現代ビジネス学部 染岡慎一)



安田女子大学 新館(9号館)



安田女子大学

【事務局便り】

事務局の移転および事務局員の 勤務体制の変更のお知らせ

CSI事務局長 染 岡 慎 一（安田女子大学）

かねてよりご案内の通り、9月1日付けでCSI事務局を幟会館2階のひろしまNPOセンター、NPO共用事務所スペースに移転し、それにともなう手続きを完了いたしました。

さらに、CSI旧接続事業の残務処理が終了し、事務局員も2名フルタイム勤務の体制から1名パートタイム勤務の体制へ移行いたしました。新体制では郵便物、Faxの処理が週1～2回、電話も取りにくい状況となり皆様方には大変ご不便をおかけする事となります。諸般の事情もあり皆様方のご理解を賜りますようよろしくお願いいたします。尚、電子メール(sec@csi.ad.jp)につきましては毎日処理・対応いたしておりますので、事務局への連絡はできるだけ電子メールをお使いいただきますようご協力を願います。

SuperCSI新サービスのお知らせ

SuperCSIネットワークサポートセンターは、接続組織様向けIPv6接続の提供に続いて、12月1日より、「SuperCSI TV会議Service」を開始いたしました。このサービスはSuperCSI接続組織様が主催する5地点までのTV会議のアクセスポイントを提供するもので、NetMeeting等で利用いただけます。

さらに、CSI会員様であればどなたでもご利用いただける「SuperCSIライブ中継サービス」の提供も開始いたしました。このサービスをご利用いただくと、簡単な装備をご用意いただくだけでインターネットへのライブ中継(ストリーミング)が可能となります。皆様のご利用をお待ちしております。

◆ SuperCSI TV会議Service <http://www.csi.ad.jp/superCSI/tv/>

◆ SuperCSIライブ中継サービス <http://www.csi.ad.jp/livecsi/>

CSI会員紹介（2004年12月23日現在）

団体正会員（22組織）*50音順 <http://www.csi.ad.jp/sec/members.html#dantai>

学校法人広島国際学院、学校法人高知工科大学、学校法人福山大学、株式会社ネットスプリング、株式会社広島市産業情報サービス、株式会社ラディックス、呉大学、県立広島女子大学、高知工業高等専門学校、高知女子大学、財団法人放射線影響研究所、日本赤十字広島看護大学、ネットワン・システムズ株式会社、比治山大学、広島大学、広島県立大学、広島県立保健福祉大学、広島市立大学、広島商船高等専門学校（マルチメディア時代における教育研究会）、福山平成大学、安田女子大学、弓削商船高等専門学校

賛助会員（13組織）*50音順 <http://www.csi.ad.jp/sec/members.html#sanjo>

伊藤忠テクノサイエンス株式会社、株式会社内田洋行株式会社、株式会社エヌ・ティ・ティ・マーケティングアクト中国、株式会社エヌ・ティ・ティ ネオメイト中国、株式会社ジャストシステム、株式会社日立製作所中国支社、株式会社ミウラ、総務省中国総合通信局、株式会社エネルギー・コミュニケーションズ、中国電力株式会社、西日本電信電話株式会社広島支店、日商エレクトロニクス株式会社中国支店、日本電子計算株式会社

個人正会員（55名） <http://www.csi.ad.jp/sec/members.html#kojin>

編集後記

ネットワークを通じてのライブ中継、テレビ会議。日常生活の中で、当たり前に使われるようになるのも間近かもしれませんね。CSIでは、人と人をつなぐネットワークコミュニティを目指し、今後も活動していきたいと思っております。（YU）

2004年12月25日 企画広報部会・広報誌編集担当 今井 一 雅、上野 優 香、河野 英太郎

